会議の概要（議事録）

会議の名称	（番号） １－２７	令和８年度第１回　墨田区地域福祉計画推進協議会
開催日時	令和８年７月２７日（月）　午後１時３０分から午後３時まで	
開催場所	墨田区役所１２階　１２１会議室	

委員名簿

出席委員（２０名）

	氏　名	所　属　等	出欠
1	白瀬　由美香(会長)	一橋大学大学院社会学研究科　教授	出席
2	中山　誠(副会長)	墨田区福祉部長	出席
3	山室　学	墨田区医師会会長	出席
4	松田　浩	東京都本所歯科医師会会長	出席
5	浅尾　一夫	墨田区薬剤師会会長	欠席
6	西村　孝幸	墨田区私立保育園協会会長	出席
7	齋藤　正樹	墨田区民生委員・児童委員協議会会長	出席
8	庄司　道子	墨田区障害者団体連合会会長	出席
9	星野　喜生	墨田区老人クラブ連合会会長	出席
10	木口　圭子	特別養護老人ホーム東京清風園施設長	出席
11	青木　剛	墨田区社会福祉事業団事務局長	出席
12	前田　恵子	墨田区社会福祉協議会事務局長	出席
13	古野　ひとみ	墨田区男女共同参画推進委員会委員 （NPO 法人あなたの SOGIE　代表理事）	出席
14	外川　浩子	NPO 法人「マイフェイス・マイスタイル」代表理事	出席
15	伊藤　林	個人ボランティア	出席
16	井上　久子	録音グループ「かりん」会長	出席
17	齊藤　宮子	点訳グループ「きつつき」会長	出席
18	大野　敏宏	「すみだにほんごボランティア」代表	出席
19	木村　幸雄	個人ボランティア	出席
20	髙橋　義之	墨田区子ども・子育て支援部長	欠席
21	渡瀬　博俊	墨田区保健衛生部長	出席
22	岐部　靖文	墨田区保健衛生部次長	出席
23	浮田　康宏	墨田区地域力支援部長	欠席

【事務局】

・地域福祉課長事務取扱福祉部参事　若菜 進
・相談支援担当課長　坂本　真紀子
・障害者福祉課長　佐久間　豊
・高齢者福祉課長　大八木 努
・地域包括ケア推進担当課長　加藤 靖規
・地域福祉課　大島、中島、佐々木
・ジェイエムシー株式会社　藤　泰久

会議の公開 （傍聴）	公開(傍聴できる)	傍聴者数	０人
議題	（１） 第４次墨田区地域福祉計画の令和７年度実績及び令和８年度事業計画について （２） 第５次墨田区地域福祉計画の策定について		
配付資料	・次第 ・令和８年度墨田区地域福祉計画推進協議会委員名簿 ・資料１　第４次墨田区地域福祉計画　令和７年度事業実績及び令和８年度事業計画概要版 ・資料２　第４次墨田区地域福祉計画　令和７年度事業実績及び令和８年度事業計画冊子版 ・資料３　第５次地域福祉計画の方向性（骨子案） ・資料４　第４次墨田区地域福祉計画（令和４～８年度）の評価指標と結果 ・資料５　現計画の体系図と主な課題との関係 ・資料６　令和８年度地域福祉計画関係スケジュール		

会議概要

【１】福祉部長あいさつ

【２】新任委員の紹介

地域福祉課長事務取扱福祉部参事から新任委員となった白瀬由美香委員、松田浩委員、 西村孝幸委員、木口圭子委員、古野ひとみ委員、人事異動のあった中山誠委員、岐部靖文　委員、浮田康宏委員の紹介をした。

【３】正副会長の選任

（１）委員の互選により、白瀬委員が会長に選出された。

（２）白瀬会長の指名により、中山委員が副会長に選出された。

【４】 議事

（１）第４次墨田区地域福祉計画の令和７年度実績及び令和８年度事業計画について地域福祉課長事務取扱福祉部参事から説明

（２）第５次墨田区地域福祉計画の策定についてジェイエムシー株式会社から説明

【委員からの意見】

◆議事（１）について

〇伊藤委員

資料のポイントが小さくて読みにくい。

本来、計画は過去の実績よりも多く見込むものだと思うが、成年後見制度など令和７年度の実績よりも令和８年度の計画の目標値が低くなっている事業がいくつかあるのはなぜか。

〇若菜参事

おっしゃる通り、成年後見制度は令和７年度の申立ての実績が 92 件となっていて、事業計画は 90 件と少なく設定しているが、本事業においては目標とする数字を多く立てることが目的ではなく、申立ての実績件数をしっかり捉えていくことを基本と考えている。そのため、令和７年度の 91 件という実績から 90 件くらいを基本的な最低ラインとして、実際は区長申立てが必要となった

案件については 100 件でも 110 件でもしっかり対応していきたいという意向でこの数字にしている。

〇伊藤委員
　実績より少ないというのは違うのではないかと感じた。目標値が低いと達成度も低く、評価は高くなるため、せめて現状維持は必要でないか。

〇若菜参事
　確かに令和４～８年度では90件を目標としているが、計画中に目標を超えた件数の実績がある場合は、現在の目標値より高い数字に置き換えることも必要と思っており、ご意見を参考にして取り組んでいきたい。

〇齋藤委員
　現在の４次計画は令和８年度までで、これからの５次計画は完全に変わるのか、それとも４次計画を踏襲しているのか。また、令和８年度の事業計画は今年度いっぱいでまとめとしては終わるのか。

〇若菜参事
　この後の議事（２）の第５次計画の方針で説明するが、地域福祉計画の推進は継続して行っていくものであり、基本的に現計画を踏襲すると思っている。
　また、経期をともなう計画であるため４次計画は一旦終了するが、同じ事業を引き続き継続、充実、強化していくために、新しい５次計画でも取り組み事業として掲げることはあると考えている。

〇白瀬会長
　この後の議事（２）で計画のどの部分を継続していくのか、どこに重点を置いていくのかの説明があると思うため、そちらでまた議論をできればと思う。

〇西村委員
　文言修正のお願いだが、事前送付資料（２）の事業番号11番の事業計画で「目標」が「実績」との表記になっている。他にも事業番号21番などいくつかあるため修正してほしい。

〇若菜参事
　確認して修正させていただく。

〇白瀬会長
　事務局のほうで再点検していただいて修正してほしい。

【委員からの意見】

◆議事（２）について

〇外川委員

見た目問題を課題として挙げている自治体は墨田区だけだと思っており、感謝申し上げる。

事前送付資料（３）35 ページの見た目問題を抱える人たちへの差別は、確かに減少傾向にあるとは言いつつも６割と高い数字となっており、恐らく本当はもっと高いという実感がある。感想に近いが、見た目問題が人権侵害なのかがそもそも難しく、数字には反映されない人権侵害があると思う。それは 33 ページにも関連するが、人権侵害を受けたと感じた経験で「ある」が増加傾向なのは逆に問題ではなく、人権侵害を受けているという意識を持てるようになったから増加したと、むしろいいこととも言える。いじめの問題も同様で、相談件数の増加は、自覚が増えて相談しやすくなったとも言える。

14 ページで、すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムで 20 代から 40 代の参加者が増加傾向にあるとのことだが、理由が分かれば教えてほしい。

〇前田委員

社会福祉協議会として、地域福祉課と本フォーラムを開催した。若い人たちにも関心を持ってもらうために、近年は、区内の中学校と高校に直接声掛けをし、各校で部活としてボランティア活動をする子たちに、実際にボランティアをやってもらい、主体性を持って参加してもらった。その結果、参加は増えてきており、今後も同様の取り組みを行っていきたい。ただし、本フォーラムの実施時期が墨田区のボランティアの日（７月１日）あたりで、試験の日程と重なるという問題がある。今年は６月に行ったが、開催日も今後検討課題であると考える。

〇外川委員

23 ページにも通じるが、先ほどの説明「バーチャル」とあったが、民間が既に取り組んでおり、費用、時間、周知方法の面でも区が民間と競う必要性は高くないと考える。そのため、今のお話のような取り組みが参加の増加につながるのであれば、区としてはリアルの体験に力を入れるべきではないか。

〇若菜参事

「バーチャル」はあくまで検討している考えの１つであり、行政として取組が必要かの判断もあるため、今の意見は参考としたい。

ボランティアフォーラムについては、若い人たちが自分たちの体験を、フォーラムの場で自分事として対面で発表してもらうことは、とても大切だと思っており、引き続き現在のやり方で進めていきたいと考えている。このような取組が、将来のボランティアとして根付き、地域での活動にもつながると考えており、続けていきたい。

〇古野委員

先ほどのバーチャルのことに関連して、民間のほうのバーチャルが進んでいる点は同じ考えで、墨田区では不登校の居場所でバーチャル空間を活用しているが、温度感もないし、つまらないからフリースクールに来たという子が大半である。オンラインの空間を検討することになった根拠を聞きたい。

また、事前送付資料（３）20 ページの区内の地域福祉プラットフォームの年間利用延べ人数は

あったが、一人の方が何度も利用されているため、実利用者数を知りたい。

〇大島係長
　交流の場や居場所を検討する中で、「居場所がない」という方に一定程度は若者の方がおり、若者の方にとって参加しやすい方法の１つとしてオンラインも考えられるという点で挙げている。ただし、民間で既に行っているもの等もあり、区が全てやるという点はまた別の問題と考える。

〇坂本担当課長
　地域福祉プラットフォームの実利用者数は現時点で手元にないため、次回までにご提示できるようにする。

〇西村委員
　現計画の事業の評価で、92%がＡ評価であることをどう捉えるかは少し考えたほうがよい。「非常に良くやったから 92%」と考えることもできれば、「やれることをやったから 92%」とも考えることもできる。行政の事業評価で必ず出る視点ではあるが、少し俯瞰してみると他にやれることはないかという視点が出てくるのではないか。
　もう１点、目指す方向性について、目指す方向性から、ニーズの変化、社会状況の変化、国等の施策の変化などが横ぐしで加わり、最後に事業や実務を実施する私たち事業者におりてくることになるが、目指そうとしていることと実際に事業を行う場との乖離が生じている場合がある。そのため、目指す方向性だけでなく、実際の運営の両サイドから計画を見直していくことが大事だと思う。

〇若菜参事
　活動指標と成果指標の捉え方や、目標を達成しているか否かになると思うが、できることを全部やったとの捉え方は、できないと思っている。ただし、計画記載の取り組みは可能な限り実施し、一定程度の成果が見えたと捉えている。
　一方で、目標に届いていない取り組みも多くある。目標設定は、達成可能な目標を設定するというやり方もあるが、その設定はネガティブであり、そういった意味で目標設定は重要だと考えている。次期計画では、区として「できることはやり尽くした」、「やっていくことを何とかやり尽くせた」など、これならば自分たちも進められると皆さんにも言ってもらえるものになるかは分からないが、しっかりと意識をして計画事業に取り組んでいきたい。
　２点目について、地域福祉計画を策定すると、その後に社協が実際に携わる地域活動計画を策定する。事業の需要があるから進めていくとしても、実際にはなかなかできないこともあり、委員の方々にも参画していただき、改めて地域活動計画を策定する際には、実際に事業を行うといった観点からの調整や需要に対する計画事業の整合に関する意見を頂きたい。また、本計画を策定するにあたっても、理想や耳障りのいい言葉だけを掲げるのではなく、西村委員からいただいた意見をできる限り意識していきたいと思っている。

〇伊藤委員
　目標値の評価がＡＢＣという３段階しかないため、もっと細かくすれば「目標値に達しなくても頑張った」等の段階的な評価もできるのではないか。そうすれば、目標値を下げずに目標を高く設定することもできるのではないか。
　もう一つ、プラットフォームで行っているスマートフォン教室のようなものを、今年の春まで会

長をやっていたので、昨年月一回の町会企画の一つとして、町会会館でやることにした。
　初回は老人会に声をかけたものの積極的な参加はなかったが、２回目は定員オーバーになり、質問時間も 30 分オーバーしてしまい、またやってほしいということになった。プラットフォームが遠くて行けないため町会でやってほしいという声はあったが、実際にここまでニーズがあるとはやってみないと分からなかった。継続してやったほうが効果が上がるものは、プラットフォームのようなところでばかりではなく、町会会館など身近な場所でやっても良いのではないか。

〇白瀬会長
　数分で歩いていけるようなより近い範囲のところでイベントが多くあった方がより参加しやすいということかと思う。大きな全体のイベントだけではなく、地域ごとでの取り組みも大事かもしれない。
　評価の点に関しては議題（１）でも指摘があったが、どの程度の目標とするかのさじ加減が第５次の計画を立てる上でも大事になってくるかと思う。事前送付資料（４）を見ると、黄色の目標を達成できているところは必ずしも多くなく、それ以外は順調に進捗しているが目標までには至っていないところである。これは、目標自体が期待を込めた理想的なものだったかもしれないし、第４次が始まった時期はまだコロナ禍で活動制限があり、制限解除された場合の期待を込めた数字だったかもしれない。今年度の現状を踏まえて今後の目標をどうしていくべきか委員の方々から色々とご意見いただきたい。

〇山室委員
　災害時等についてあまり触れられていないが、災害時の避難所や体制等で明らかにされていないところがあるため、計画で考慮したほうがよい。

〇若菜参事
　現計画の「安心して暮らせる福祉のまちづくり」において、災害時の支え合いは重要なため、次期計画にどのように落とし込めるか事務局の中でしっかり考えていきたい。

〇松田委員
　歯科医師会で様々な講習会をやっているが、参加者が高齢者ということもあり男女比率がかなり偏っている。高齢者支援センターでのイベントも参加者が女性に偏っていると聞いており、男性にも参加しやすい環境、イベントができるとよい。
　また、近年は外国人の方が増えており、長期滞在の方への対応は計画でも考慮が必要ではないか。

〇白瀬会長
　長期滞在者の方と診察や診療の場面で関わる機会は増えているのか。

〇松田委員
　当医院ではないが、増えているという話は聞く。
　また、先ほどの山室委員の防災と関係したところで、外国人の方との非常時のコミュニケーションも検討する必要があると思う。

〇庄司委員

障害者の代表であり、知的障害を持つ娘がいる立場として、事業番号 23 番「地域生活支援拠点等が有する機能の充実」にあるように、親亡き後にも必要とされている地域生活支援拠点について、平成 28 年に各区に 1 カ所は整備するように国から通達があったと思うが、墨田区の場合はようやく重度障害のグループホームの中に生活支援拠点の働きをする機能を整備したところである。ただし、相談はこちら、緊急時はこちらとばらばらな状態になっている。親の具合が急に悪くなったり、もしくは亡くなったりしたときの緊急時にもスムーズに機能が働いてくれることをお願いしたい。資料内で触れられているということは重要性を理解されていると感じた。

○星野委員

課題が多すぎて何を話すか難しいが、資料にも記載のとおり、老人会の現状として一人暮らしや孤立の深刻化の問題に焦点が当たっており、どのように対応していくかなかなか難しいと思っている。昔は、自分たちの生活と地域が支え合い、地域にいる人の存在があって初めて自分も生きられるという状況だったが、今は地域に支えてもらわなくても生きられるような状況になっていると思う。しかしながら、昔は困りごとがあった時に地域で相談すれば解決できたり、手伝ってくれたりしたが、今はそれがなくなり孤立しているため、いろんな要望や不満はあるが誰に相談していいか、どうしていいか分からない状況にあるのだと思う。そのため、孤立がより目立ってきているのかもしれない。

墨田区のサポート 21（すみだハート・ライン 21）では、ミニサポートで例えば「たんすを移動してほしい」、「足が悪くて買い物に行けないので買い物に行ってほしい」など連絡すれば 30 分 400 円でやってもらえるが、ほとんどの人が知らないと思う。我々自身も会の中でそのような事業の周知を徹底すると、老人会活動自体が幅広くなると同時に、活動の深みが出てくると思う。また、地域との連携が生まれ、地域での意識が向上する。そのような取り組みがあって頼ろうと思えば頼られることは大事だと考える。計画にも「地域で支え合い、助けあうしくみを確立する」と取り組みの方向性としてスローガンが出ており、見守りや、支え合う活動、地域を高める活動という、いいスローガンだと感じている。もっとこのイメージが豊かになってくると、より頼れる社会になってくるのではないかと感じた。

○木口委員

特別養護老人ホームの利用者の平均年齢は 86.5 歳で、いま事業者の我々が抱えている問題は人手不足と、人手不足がゆえに外国人の職員と一緒に働いていくことの難しさである。外国人の職員に高齢者の方へのお世話をするということの日本の文化をどのように一緒に共有していくかという中で、「④ 頼れる身寄りのない高齢者の増大に対応」がある。先ほどもあった災害時について、福祉施設は地域の災害拠点にならなければいけないが、人員配置が極めて緊迫している状況で地域の方を本当に抱えられるのか不安である。やれることからやっていく、普段から施設を十分理解していただく等、施設には地域の寄り添いみたいなことがもう少し必要ではないかと考えている。また、高齢者は途中で具合が悪くなったり、入院したり、熱が出たりとかという医療との関係性が大きいため、身寄りがない高齢者となると難しい問題になる。資料掲載の課題を我々の現場サイドと区の行政としっかり組み合わせていけば、安心して暮らせる墨田区になると思っており、しっかりやっていかなければならないと感じている。

○青木委員

事前送付資料（３）４ページで「多くが目標値には達していないものの、計画当初からの改善は

しており」という説明があった。目標値については先ほど伊藤委員からも指摘があったが、この５カ年計画の目標の定め方をどう捉えるか、次の第５次計画が終了した時点で、多くの目標を満たすために、例えば目標値を細かく刻んで設定することも考えられるか、理想とする遠い未来の達成に向けた目標値とする方がよいという考え方で設定をされるのかについて伺いたい。

続いて９ページで、アンケート結果の表を見ると、19.8%の方が「相談できる人がいない」、また次の 10 ページでは多数の方が公的な相談場所を知らなかったと回答している。問題は、この相談場所が分からない方のうち、相談を強く求めている方がどのくらいの割合でいるかである。もともと相談したいことがないから相談場所を知らない方ばかりであれば大した問題ではないが、相談を強く求めている方が多いにも関わらず、相談する場所を知らないという状態であれば、これは見過ごせないと感じた。もし今回の結果が毎回継続しているようであれば、一歩踏み込んだ調査する時期が来ているのか。

最後３点目、28 ページについて、10・20 代の方から 50 代までの若い人は成年後見制度を使いたいという結果となっており、60 代から 80 代の高齢者の方は使いたくないと言っている。この正反対な状態のまま制度を導入すると揉めるのではないか。そもそも高齢者本人の意見の尊重が言われている中で、どのように捉えるのか。

〇井上委員

先ほど「男性の参加が少ない」との意見があったとおり、それを実感している。私も体操教室を何回も開催しているが、参加者は全員女性である。男性は、どうしたら参加しようと思うのかを委員の方々に伺いたい。

〇齊藤委員

災害について意見があったが、災害時の運営対応については圧倒的に男性、それも高齢男性が多い。しかしながら、次の担い手不足問題があり、半分は女性にする、年齢制限をかける等、思い切ってやらないと変わらないのではないか。子育て中の母親には参加してほしいと考えている。

話は変わるが、図書館の障害者サービスは視覚障害の方への支援に偏っている印象がある。現在は IT の進歩による情報収集が進んでおり、視覚障害の方に重点をおくのではなく、他の障害の方、特に学習障害のある子どもを対象にして、居場所の問題にもつながると思うが、その辺も考慮して計画を立てていただきたい。

〇大野委員

日本語ボランティアで外国人の方に日本語を教えている。先ほど松田委員からご意見あった外国人の方の災害時に関連して、日本語が上達している方には自主的に率先して避難所で通訳してもらうようにしている。例えば、避難所では大人しくするように伝えてもらう等、微々たることではあるが実施できるようにしている。可能であれば、社協の災害ボランティアに登録させたいが、なかなかそこまでできていないのが現状である。もちろん永住している外国人の方に対しても教えている。

〇木村委員

自分事であるが、認知症の家族を特養に移転するために随分苦労して何とか決まって、今は入居できてほっとしている。認知症の中にも暴力的な人もいれば、大騒ぎする人もいるため、家で面倒を見ているときは警察からの電話だとかいろいろあったが、今はもう１カ月に１～２回くらいと良

くなり、施設の方も一生懸命で良かった。

〇若菜参事

次回については 11 月を予定しており、また日程調整をさせていただきたい。

先ほど青木委員からあった２点の質問について、目標は経年で置くことが難しいため、経年の数値の増減等を見ながら最終的な目標をしていく必要があると思っている。

もう１点のアンケートについては、以前も別の委員からもう少し掘り下げた分析ができる設問を設けたほうがよいのではないかという意見があった。掘り下げすぎるとアンケート回答の母数が少なくなるということもあるが、次回の調査では、もう少ししっかりと分析できるような設問を考えていきたい。

〇白瀬会長

共通の話題として目標設定の在り方が今後の計画策定に重要事項の１つになると思う。どのような観点で、どのくらいの目標を定めていくかである。

また、増加する外国人の方への対応、特に災害時については、この計画の中でもう少し議論したほうがよいというのが共通して委員の方々から出た。前回の計画でも盛り込まれていたが、単に盛り込んだだけではなく、もう一歩先の議論、また個別な事案に関しては中身を少し見直していくこともあり得るかもしれない。

時間が限られており十分に発言できなかった方、ご意見、ご感想、ご提案などあれば机上の意見書に記入し、８月７日までにファックス、郵便、メールで地域福祉課まで送付してほしい。

会議の概要は、以上である。

所管課	墨田区福祉部地域福祉課地域福祉担当 （電話０３－５６０８－１１６３）